

高IgM血症、慢性肺障害とウイルス感染症の関与について： 2'、5'-Oligoadenylate合成酵素活性を用いた臨床的検討

(分担研究：慢性肺障害の管理と予防に関する研究)

研究協力者 大野 勉
共同研究者 勝又 大助

緒言：2'、5'-Oligoadenylate合成酵素(2-5AS)は、インターフェロンにより誘導される酵素の一つで、ウイルス感染で酵素活性が上昇することが知られている。

そこで今回われわれは、早期新生児期に高IgM血症を呈した児の血清2-5ASを測定し、慢性肺障害(厚生省慢性肺疾患分類：小川班のIII型)と胎内感染、特にウイルス感染との関係につき検討した。

対象と方法：対象は、出生後12時間以内に入院した児のうち、入院時高IgM血症(IgM \geq 25mg/dl)を呈した11症例36検体である。この11症例を以下の3群に分けて検討した。

group 1：低出生体重児で慢性肺障害を認めたもの。

group 2：低出生体重児で慢性肺障害を認めないもの。

group 3：成熟児で慢性肺障害を認めないもの。

各群の平均在胎週数、平均出生体重、平均血清IgM値は表1に示す。

測定は、50 μ lの血清を用いて2-5AS測定用キット(栄研イムノケミカル社製)を使いRIA法にて行った。測定はいずれもduplicateで行った。

結果：

1) 早期新生児期における2-5ASの測定値の平均 \pm S.Dは、group 1……80.3 \pm 46.9pmol/dl、group 2……68.2 \pm 23.8pmol/dl、group 3……47.3 \pm 30.1pmol/dlであり、各群間で有意差はみられない(図1)。

2) 新生児期の2-5ASのcut off pointは221.5pmol/dlであるが、いずれの症例でもこの値を越えるものはなかった。

結論：今回検討した高IgM血症、および慢性肺障害の症例にはインターフェロン-2-5AS系に関与する多くのウイルス感染は、少なくとも早期新生児期においては活動期にはないと考えられた。即ち出生前2週から1ヵ月以内のウイルス感染症は関与していないと考えられた。

表 1

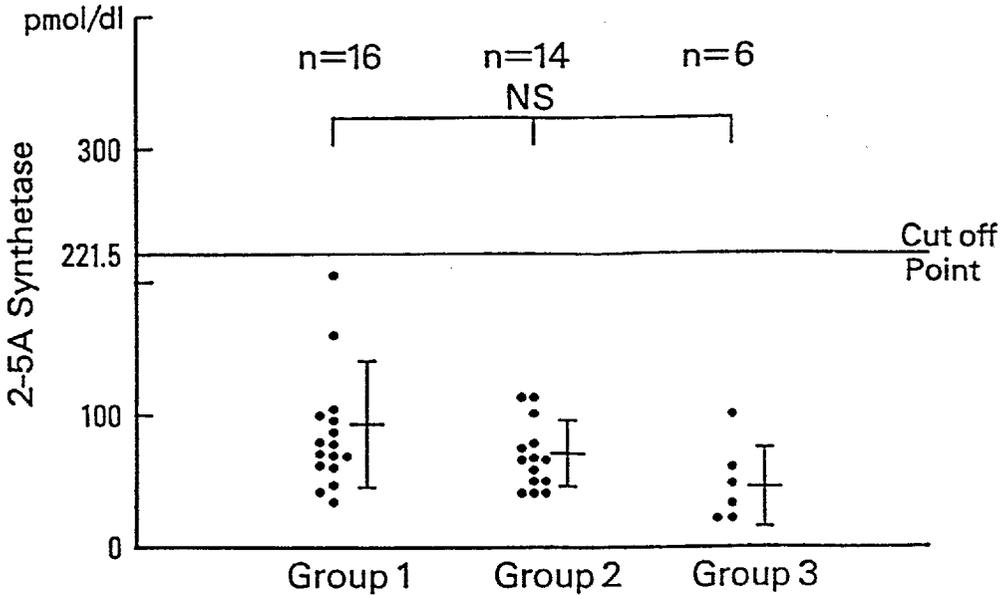
Study Population

	Group 1	Group 2	Group 3
Total No.	5	4	2
Gestational Age	28w6d±1w3d	34w0d±4w0d	38w6d±1w3d
Birth Weight	1214.4±316.6g	1683.8±482.6g	2745.0±289.9g
Serum IgM Value	85.2±27.9mg/dl	55.8±20.5mg/dl	102.0±30.1mg/dl
CLD	+	-	-

CLD : Chronic Lung Disease

图 1

Comparison of Serum 2-5A Synthetase Values in Three Groups





検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



緒言:2', 5'-Oligoadenylate 合成酵素(2-5AS)は、インターフェロンにより誘導される酵素の一つで、ウイルス感染で酵素活性が上昇することが知られている。

そこで今回われわれは、早期新生児期に高 IgM 血症を呈した児の血清 2-5AS を測定し、慢性肺障害(厚生省慢性肺疾患分類:小川班の 型)と胎内感染、特にウイルス感染との関係につき検討した。